

離島航路と架橋

～島民の暮らしを支える定期船。悲願の架橋実現で活気～

佐賀県内で人が住む離島をかかえる自治体は唐津市だけである。玄海灘に点在する島は、高島、神集島、小川島、加唐島、松島、向島、馬渡島の七つで、これらの島々は玄海国立公園に指定され、特徴ある景観が来訪者の目を楽しませる。

しかし、島民は本土のように自由な移動は出来ず、暮らしの支えとなっているのは離島航路の定期船である。各島への航路は次のようになっている。

＜高島－唐津＞ 1日6往復で所要時間は10分

＜湊－神集島＞ 1日9往復で所要時間は 8分 ※日・祝・休日は7往復

＜小川島－呼子＞1日5往復で所要時間は20分 ※11月～3月14日の平日は4往復

＜加唐島－呼子＞1日4往復で所要時間は17分

＜松島－呼子＞ 1日3往復で所要時間は15分

＜馬渡島－呼子＞1日4往復で所要時間は50分 ※名護屋港経由

＜向島－星賀＞ 1日2往復で所要時間は10分

料金は所要時間等にもとづいて大人で200円～840円（片道）となっている。
2012年3月 現在

平成15年から25年までを期間とする佐賀県の離島振興計画でも、住民生活の安定と産業振興などを図る上で、離島航路の重要性を強調し、便数、運行ダイヤ、待合所の整備が不十分と指摘している。また、船舶の近代化、バリアフリー化などへの支援の必要性も記述している。

唐津の離島は本土からの距離が0.6～8キロメートルとそれほど離れていないため、架橋によって本土と陸続きになりたいという島民の願いは切実なもので、呼子町の加部島も熱い思いが呼子大橋の完成で現実のものになった。以前は呼子からの定期船に頼る暮らしだったが、平成元年（1989）4月に殿ノ浦から730メートルの大橋が開通した。海峡をまたぐ美しい姿は一大観光名所となり、地元経済に活気をもたらした。

肥前町沖合いの鷹島は長崎県に属するが、唐津との関係が深く星賀港から1日10往復のフェリーが通っていた。ここも島民の悲願が実り平成21年（2009）4月、鷹島肥前大橋が開通した。鷹島の経済、暮らしを支えてきたフェリーは46年の歴史に幕を閉じた。観光客の増加は肥前町にも好影響を与えている。

壱岐へのフェリー港としても唐津は大きな役割を果たしている。以前は呼子と印通寺を結ぶ航路だったが、平成19年4月から唐津港（唐津東港）に変わり、2隻体制の1日5往復で運行されている。

| | |
|----|-------------|
| 分野 | 産業 |
| 地域 | 唐津・肥前・鎮西・呼子 |

◎地図・写真・統計資料など



高島行船着場



呼子港停泊の定期船「かから丸」
（田中好美氏より）



呼子大橋
（あそぼーさがHPより）



鷹島肥前大橋
（あそぼーさがHPより）

◎引用・参考文献（出典）

◆『七つの島物語』
（島づくり事業実行委員会）



◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html